



夢のある廃棄物学会へ

廃棄物学会会長 田中 勝

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、米国の同時多発テロ事件、炭疽菌事件、狂牛病騒ぎ等、暗いニュースが多い 1 年でしたが、12 月には皇太子ご夫妻にお子様誕生と明るいニュースが飛び込んできました。今年も明るい話題で希望に満ちた夢のある年にしたいものです。

私たちの廃棄物学会は、設立 12 年目を迎え、個人会員、公益会員、賛助会員を加えて 4,200 名を超える団体になり、今もなお会員は増え続けています。会員が増えているということは、廃棄物問題が山積している今日、廃棄物学会に夢と期待が持たれているからだと思われます。

21 世紀は、廃棄物が出来るだけ発生しない社会、天然資源採取量を抑制し、環境負荷の低減、持続可能な経済社会の実現につながる社会、すなわち循環型経済社会の構築が求められています。私も内閣府の経済財政諮問会議専門調査会メンバーとして、循環型経済社会の実現に向けた課題について出来るだけ俯瞰的視点から検討を行いました。国民が共有すべき基本的なビジョンとその実現に向けたシナリオを明確化することを目的に、昨年 11 月末には「循環型経済社会に関する専門調査会」中間取りまとめを発表しました。その中では、1) ごみを「不要なもの」から「資源・エネルギー」として活用する社会へ転換、2) 2050 年までに埋め立て処分量を 10 分の 1 にすること、3) 情報ヘッドクォーターの創設を柱にして提言しています。(詳しくは「経済財政諮問会議」ホームページを参照下さい)

廃棄物が適正に処理されるためには、解決しなければならない問題がたくさんあります。このような問題解決のために、会員の皆さんの調査や研究の成果が生かされ、科学的データや知見に基づいて、合理的に解決されることを願っています。施策の効果を定期的に見直し、科学的根拠に基づく廃棄物行政を推進し、また現場での適正な廃棄物処理の実施に、廃棄物学会は技術面や科学面でサポートすることが望まれています。

これからも大きな夢と期待がかけられている廃棄物学会で

すが、一方では厳しい運営を強いられています。学会では、11 年の実績の下、改革を断行すべく廃棄物学会の対象範囲、学会のメリット、支部活動、財政基盤の強化、IT 時代における情報発信のあり方を検討しています。一年前に会員に対してアンケート調査を行いました。皆さんの学会に対するニーズを把握し、また評議員からも意見を聞き、その結果を今後の学会の運営に生かすべく最大限努力してまいります。

今年度も、学会誌の発行、研究発表会の運営、学会ニュース、英文ニューズレターの発行、研究の活性化のための助成、セミナー、シンポジウムの開催など、色々実施してまいりました。また年の暮れ 12 月には廃棄物学会が中心となって、PCB 廃棄物や、感染性廃棄物、ダイオキシン汚染廃棄物の処理など有害廃棄物問題を議論すべく、環太平洋有害廃棄物国際会議を岡山にて開催し、成功を納めることが出来ました。ご支援いただいた皆様にはこの場を借りて、厚くお礼を申し上げます。

これからの学会運営に関しましては、学会のホームページを充実する等まだ残された課題も多いわけですが、賛助会員の増加で財政体質を好転させ、サステナブルな学会にしなければなりません。また学会活動として、なんでもかんでもやるのではなく、メリハリをつけ、やるべきことには優先順位をつけて、効率よく活動していきたいと考えています。そのような意味で、会員の間でも議論していただき、改革すべき点は改革を断行していきたいと思います。法人化についても、未だそのめどは立っていません。今日まで文部科学省に対しては様々な資料を提出し対応をしてきましたが、いつ法人化されるのか依然不透明のままです。

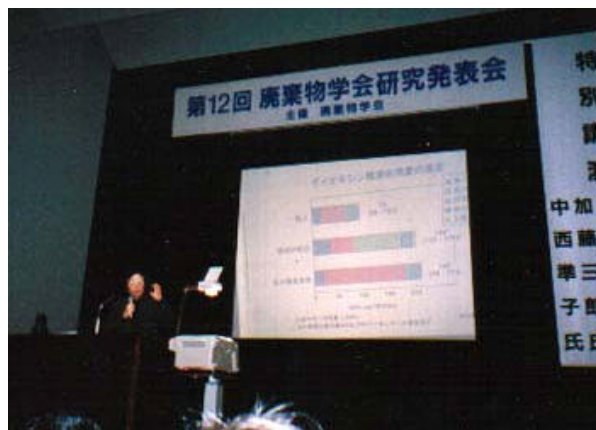
このように期待されている学会を運営するのも学会員、負担するのも、便益を受けるのも学会員であり会員中心のそして開かれた夢のある学会を目指して改革をしていきたいと思っています。どうぞ廃棄物学会をこれまで以上にご支援くださいますよう宜しくお願いします。

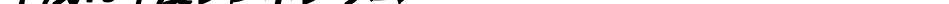
皆様のご健勝を祈念して、新年のご挨拶とさせていただきます。
(岡山大学大学院自然科学研究科教授)

次回、第13回研究発表会は平成14年11月28日(木)
～11月30日(土)の3日間、京都市国際会議場において
開催する。多くの参加をお願いします。

表3 優秀ポスター賞受賞論文名及び受賞者

講演番号	表題・受賞者
A5-6	都市ごみゼロエミッションシナリオのコスト・二酸化炭素排出量・エネルギー消費量評価 北海道大学 松藤 敏彦、田中 信壽 復建調査設計株式会社 羽原 浩史
B1-5	下水污泥焼却灰からのリン酸カルシウムとしてのリン回収実験 川崎市 高橋泰弘、吉田佳子、秦野正人
B4-7	コンポスト化反応のシミュレーション 山梨大学 金子栄廣
C2-4	廃棄物高温空気燃焼に関する数値計算 NKK 鈴木 実
C3-6	建設廃木材の焼却生成物質（第1報） 埼玉県環境科学国際センター 倉田泰人、小野雄策、河村清史
C7-8	焼法防蝕集積地域におけるダイオキシン類汚染 関東学院大学 川本克也、鈴木和将
E2-7	土壌・地下水汚染調査における地形・地質構造のモデル化手法と予測修復への適用 群馬県 石井邦幸 北海道大学 古市 徹、石井一英



 企画委員会 
平成13年度シンポジウム 平成13年11月28日

平成 13 年 11 月 28 日、幕張メッセにおいて廃棄物学会技術シンポジウムが開催された。参加者は約 180 名と多く盛会であった。

灰の焼成・焼結等によるクリーン化等に挑戦していることが分かった。

発表後は質疑応答に移り、発表者全員が壇上に並び会場の参加者と討議した。質問はメーカ技術者からの高度な技術的質問から自治体関係者による開発の熟度、実機化の時期等に関するものなど広範囲にわたっていた。

(企画委員会 藤吉 秀昭 記)



- 3 -

平威13年11月20日

(関西地区連絡会 福永 勲 記)

平成13年11月9日

講演する森田氏

■□■□ 企画委員会 ■□■□■□■□■□

市民と学生のためのセミナー

「どうするマテリアルリサイクル ～その他プラスチック容器包装の現状と課題」開催案内

下記要領にて首記セミナー開催します。奮ってご参加ください。

開催日時：平成14年2月8日（金）13:30～16:30

開催場所：慶應義塾大学大学院棟 1F313 番教室

（東京都港区三田 2-15-45）

参加費：1,000 円（資料代） 当日会場にて申受けます。

パネリスト 北海道環境アドバイザー 中村恵子

（株）福田商会プラスチック事業部長 川島章弘

経済産業省リサイクル推進課長 田辺靖雄

立川市環境下水道部ごみ推進課 有竹隆男

コーディネーター 市民消費者研究部会 西ヶ谷信雄

申込方法：往復はがきに 氏名 勤務先 住所 電話番号を明記し、申込先へ（返信はがきに返信先住所・氏名を記入しておいて下さい。）

申込先：〒108-0014

東京都港区芝 5-1-9 豊前屋ビル 5F

廃棄物学会事務局

市民と学生のためのセミナー係

申込期限：平成14年1月25日（金）

富山県立大学短期大学部環境工学科教員公募

2002 年 4 月より同学科および専攻科で廃棄物分野を担当する教員（講師または助教授1名）を募集しています（応募締切：2002 年 1 月 15 日）。

詳細は環境工学科楠井（クイ）までお問い合わせください。（tel:0766-56-7500,E-mail:kusui@pu-toyama.ac.jp）

会 員 状 況

H13.11.30現在
（ ）内は、H13.4.1以降の増減

正 会 員	3,625 (222)
学生会員	298 (63)
外国人会員 (DM)	20 (1)
公益会員	116 (5)
賛助会員	216 (15)
計	4,275 (306)

注) 外国人会員(DM)は、廃棄物学会外国人等会員規程第4条に定める会員を示す。

廃棄物学会ニュース No.66 平成14年1月1日発行
廃棄物学会 〒108-0014 東京都港区芝 5-1-9 豊前屋ビル 5F

Tel.03-3769-5099 Fax.03-3769-1492

R100

<http://www.soc.nii.ac.jp/jswe/index.html>
古紙配合率 100%再生紙を使用しています

■□■□■□■□ 選挙管理委員会 ■□■□

第7期役員選挙についてのお知らせ

廃棄物学会第7期役員（理事・監事）の選任につき、廃棄物学会会則及び廃棄物学会役員の選任に関する規程にもとづき、次の日程で選挙を行います。

告示：平成14年1月31日（木）

（廃棄物学会誌第13巻第1号並びに廃棄物学会事務局に告示します。）

立候補者の届出：

平成14年1月31日（木）から2月21日（木）まで。必着

投票用紙の発送：平成14年2月28日（木）

投票締め切り：平成14年3月19日（火）必着

開票：平成14年3月20日（水）

選挙結果の承認（新役員の決定）：

平成14年度総会

立候補の届け出及び候補者の推薦にあたっては、別紙「廃棄物学会第7期役員選挙立候補届・推薦届」を使用して下さい。

立候補者及び推薦人は、選挙権及び被選挙権を有する正会員（平成13年9月30日までに平成13年度会費を納入した正会員）に限ります。

事務局は1月7日(月)より業務を開始します。

事務局だより

西暦で表示すると数字の並びが良い2002年を迎えました。昨年までに、循環型社会形成のための法律、国の行政組織や研究体制等も整備され、循環、廃棄物、リサイクル、環境負荷低減等をキーワードとした様々な行政施策や研究、技術開発の国家プロジェクトが進行中です。廃棄物分野において、本年を数字の並び通りの良い年とするには、廃棄物学会員を核とした連携によって人材とお金を有効活用し、これらの事業から廃棄物問題の具体的な解決と循環型社会実現に本当に役立つ成果を生み出すことが必要です。

最近の研究発表会では、大学や企業の若い方が口頭発表者となる例が増加しています。この状況は喜ばしいことですが、残念ながら、それらの方々が会員である割合は低いようです。今後も、廃棄物学会員が核となって循環型社会形成に貢献していくには、廃棄物学会の持続可能な発展が不可欠です。そのためには、学会の活動基盤を支えるとともに活動を活性化する若手会員の増強が、きわめて重要です。共同発表者の会員の方には、非会員の若い口頭発表者が廃棄物学会へ入会するように誘導していただくことを、是非ともお願いいたします。（谷川 昇）